



おおぞら

第209号

2022年7月1日発行

発行責任者 荻野和功

編集者 木部哲也

<http://www.seirei.or.jp/mikatahara/oozora/>

心地よい入浴

おおぞら2号館課長 白鳥園枝

日本人はお風呂好きと言われ、浴槽に浸かる文化があります。入浴の目的や浴槽に浸かる効果は、体を清潔に保つことや温熱効果による血流促進、静水圧によるマッサージ効果、浮力による筋肉や関節の負担軽減などがあります。

2号館には浴室が2力所あり、昇降型の機械浴槽が3台と家庭浴槽があります。様々な障害像の利用者を、障害像や医療度に応じて2名から3名の看護師と生活支援員が協働し入浴介助を行なっています。

浴槽に浸かっている様子は利用者によって様々です。水面を足や手で叩いている人、緊張がとれジツとしている人、職員と会話をしている人、人工呼吸器を装着した利用者は、人工呼吸器を装着したまま浴槽に浸かっています。入浴は利用者それぞれくつろぎの時間になっているように感じます。

一方、職員にとって入浴

介助は利用者の全身の観察を行う機会でもあり、体温や呼吸、血流などの変化により体調の変化も起きやすい場面であるため緊張する時間でもあります。それと同時に入浴介助は、利用者との密に関われる貴重な時間です。利用者が心地よい入浴時間を過ごすために職員は個々に応じた介助を心がける必要があります。ここで私の心がけていることと課題に思うことを述べたいと思います。

まず私の心がけていることは心地よい洗髪の方法です。それは2つあります。1つは頭部が揺れないように洗髪することです。これは看護学生時代に洗髪の演習で、指導を受けました。自分自身も美容院で洗髪してもらった時に頭部が揺れることは不快に感じます。そのため演習以来ずっと意識して実践している方法です。その方法は、利用者の後頸部に自分の片側の腕を入れて支えます。頭部が後屈し

ている利用者も多いため、後頸部に結構な力がかかっていることを感じます。この状態で頭部を揺らした状態で洗髪をされたとしたら、利用者が痛みや不快を感じるだろうと予測されます。そのため、頭部が揺れないようしっかりと支えて洗髪するようにしています。

2つめは満遍なく洗うことです。利用者の多くは自ら頭を掻いたり、触ったりできない人がほとんどです。利用者の中には頭皮に深いしわがある人もいます。そのしわの中までしっかりと洗っています。洗髪している時の利用者の様子はどの人も表情が緩んでおり心地よさそうです。このような様子から私自身、洗髪ひとつにしても奥深く、やりがいを感じています。

続いて課題に思うことです。それは低体温の利用者の入浴後の体温調整です。2号館では適度な浴室温度管理ができるよう、エアコンと床暖房、パネルヒーターがあります。浴槽からでた後、効率的に水分を拭き取り着衣をするように心がけていますが、浴槽に浸かり、ほんのり肌が赤くなり温まった肌が服を着る頃には

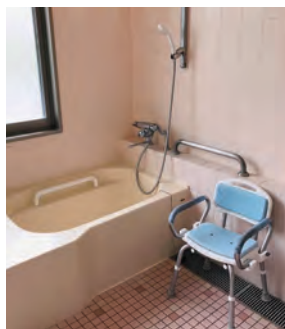
赤みがなくなってしまうこともあります。

どのようにしたら入浴で暖まった状態を保ち、心地よい生活に繋げていくことができるのかを検討しなければならぬと考えています。

先に述べたように入浴することには様々なよい効果があると言われているので、利用者にとって楽しい時間であってほしいと思います。



こだま特浴



うらら家庭浴



ほくと浴室

おぼろの

日常活動

三輪 由美子

Aさんは職員の声やテレビから聞こえてくる音や音楽をよく聞いています。リビングでの職員と他利用者の関わりや声や日常活動の語りかけや歌いかけなども時折、顔を上げて声や音をする方にとっても注目して聞いています。

生きがい活動では、語りかけの中で「がりがりむしゃむしゃ」や「デドドドデドド」と擬音語が繰り返されるフレーズや「あつたいへん！」のような抑揚を感じられるフレーズがあると、体を前後に揺らしたり、顔を上げて職員の方に顔を向けたりと気持ちが高まっているようでした。擬音語の含むフレーズや抑揚のあるフレーズに注目して聞いていました。また「だれですか?」「はいー」のひとくりのフレーズのところでもよく聞いていました。語尾が上がるフレーズの後に伸びるフレーズがくる、ひとくりの面白みを感じて

いる様でした。ひとくりのフレーズが何度も繰り返してでくるリズムも良かったようです。

歌いかけでは低い音から高い音へ跳躍するような音程の変化がある「うたえバンバン」を歌いかけました。歌いかけ始めは下を向いていましたが、じっと耳を傾けて聴いていました。「だれかのこころとこんにちは」から「ああーいいいなー」と音程が跳躍し、更にゆったりとしたリズムに変わるところで顔を上げて表情を緩ませて聴いていました。刻むリズムのあとに伸びる音がくる変化もよくリズムの緩急が感じられよく聴いていました。跳躍するような音程の変化から、伸びのあるフレーズに変化するときの、リズムと音程の変化のどちらとも面白みを感じているようでした。



カップに洗剤水を入れて「ぶくぶく…」とストローで吹き、小さい音から徐々に大きい音にさせていき、また小さい音で徐々に音が消える様に音の高さが山なりに変化するように音の変化をつけて行ってきました。カップの底で「ポコ」と小さな音が鳴ると顔を上げて聞いていました。「ポコポコボコ…」と段々盛り上がり、音が速くなると表情を緩ませたり、はっはっとして笑った様な声を出したりしていました。小さな音になっていくと表情を戻し、じっと音のしていた方を向いていました。最後の「ボコ」でまた顔を上げて音が消えてからも顔を動かしたり、口元を緩ませていたりして楽しそうな様子でした。ストローの位置を変えて、底の「ポコボコ」と表面近くの「プクプク」という音の高低を感じた時に顔を上げて気持ちが高まっているようでした。

はるか『知育活動みのり』

鈴木 紗輝

はるかでは、7名の小児

期の子どもたちが生活しています。4月の入所ゾーンの再編成で他ゾーンから移動してきて、はじめは馴れない環境や新しい職員に緊張している様子でしたが、今では職員との関わりの中でいろんな表情が見られるようになりました。

小児期は成長・発達において、とても重要な時期です。小児同士で過ごす環境を整えながら意図的に働きかけることで、個々の発達段階を引き上げることが目的に、はるかではゾーン再編成後すぐに知育活動『みのり』をスタートさせました。『みのり』という名前には、知育活動の時間を実り多い時間にしたい、という思いを込めました。

知育活動は、午後の時間にリビングの一角で行っています。はじめに、進行の職員が見えるように扇型に並んで座り、始めの会をします。普段、横になった姿勢で過ごしていることが多いため、グッションチェアに座って座位を取ると、いつもと違う姿勢になって見え方が変わるのかキョロキョロと周りを見ている子

もいます。始めの会の中で、『あなたのおなまえは』という歌に乗せて、みんなで手拍子をしながら呼名やお返事をしていきます。大勢から注目されることで照れた表情になる子もいれば、自分が名前を呼ばれた時よりも少し離れた位置にいる子の名前が呼ばれているのをよく聞いている子もいました。



みんなで週替わりの絵本を1冊聞いた後は、2グループに分かれて個別活動をしています。職員と1対1の関わりだけでなく、他利用者と職員のやりとりを見聞きできるよう、興味関心が近い子ども同士が同じグループになるようにグループ分けをしています。2グループに分かれるといっても、隣のグループの活動が感じられるくらい近い距離



で活動しています。隣のグループのやっていることに興味を持ち、そちらに移動していく子もいます。これまでには紙あそびや絵の具あそび、楽器あそびなどをしてきました。楽器あそびの時、ギターをグループの真ん中に置いて、弦を弾いて音を出すとAさんはそつとギターに触れて音の響きを感じていました。同じグループのBさんは、その様子を見て真似してギターに触れ、ギターの響きを感じるとハッと驚いたように目を丸くしていました。同じ時間を過ごす中で、互いに刺激し合っている姿がみられました。

これからも7名の子どものうちのいろんな表情や成長を見守っていききたいと思えます。



はるか成人リビング



はるか子どもリビング

◆ 病棟ゾーンを再編成しました ◆

ゾーン再編成に伴い、2号館はるかゾーンを数年ぶりにオープンしました。日当たりの良いリビングで、利用者さんたちは自分の時間を過ごしたり他の利用者の様子を見たりして過ごしています。



● 1号館 白柳美和子

B4病棟から異動になりました白柳美和子です。ワークシェアの4.5時間という短い勤務の中、慣れない業務で皆さんに迷惑をかけながらも優しく指導してくださり日々感謝です。異動し私が感じたことはスタッフの方々の利用者さんへの思いやりの深さです。私もそう思われるよう精進していきます。よろしくお願ひします。

● 1号館 田邊理香

F4病棟からおおぞら1号館へ異動してきました田邊理香です。日々の業務を覚えるだけでなく、利用者の個性をふまえた看護が提供できるよう関わりを持っていきたいと思っています。よろしくお願ひします。

● 2号館 奥野民

今年1月よりB5病棟から移動してきました奥野民

です。途中で子育てに専念していた時期もありますが、20年以上看護師として働いてきてもおおぞらでは毎日新たな発見と驚きがあるのだなと日々実感しています。利用者様の個性を尊重しつつ関わりたいと思います。

● 2号館 島野加奈

2月から、3年の育休明けで仕事復帰しました。ずっと病棟勤務だったため、療育の場という点で戸惑いもありますが、利用者に寄り添い、安全で、家庭に近い関わりができていければと考えています。

● 2号館 原田遥

B5病棟から育休明けでおおぞら2号館に復帰しました原田遥です。おおぞらは看護師の役割や働き方は、看護士の役割や働き方は違う事ばかりで日々奮闘しています。利用者が安全に暮らせる事を第一に頑張ります。よろしくお願ひします。

● 3号館 浅野真奈代

A5病棟からおおぞら3

号館に異動してまいりました浅野真奈代です。利用者の皆の命が輝いており日々の命の尊さを感じています。スタッフのサポートをしてお仕事ですが、自分の出来ることを精一杯頑張りたいです。宜しくお願ひ致します。

● 3号館 植田早慧美

A5病棟からおおぞら3号館に異動してきました植田早慧美です。利用者の中には言葉で自分のして欲しいことや感じている事を伝えることが難しい方もいるため、表情や仕草からその人が何を求めているか理解し個々にあった看護を提供出来るように頑張ります。



●はるか 油井莉里加

4月から聖隷おおぞら療育センターに入職しました油井莉里加です。

私が得意とするピアノとリトミックを活かし、利用者が毎日楽しく充実した生活を送れるようつとめます。日々の仕事の中で出来ることを1つずつ増やし、早く業務を覚え、おおぞら療育センターの一員になれるよう努力して参ります。今後ともご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

●うらら 佐々木千帆

利用者さんとあまり関わっていないのでこれから沢山関わって一つでも多くのことを知っていききたいと思っています。

まだまだ分からない事だらけで沢山迷惑をかけてしまふと思いますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

よろしくお願いします



職場長より

新入職員へのメッセージ

利用者との関わりは楽しい反面、難しさを感じることもあると思います。仕事をすすめる中の困難は先輩職員がいつでもフォローしていきます。利用者のより良い生活への支援を常に考えながら、先輩職員と共に楽しく仕事をしていきましょう。



様々な研修を受けています



生活支援課の新入職員です
よろしくお願いします！

「写真で残す思い出」

リハビリ 原品結衣

リレーエッセイ

皆さんが写真を撮るときはどんな時ですか。私は、子どもが産まれてから写真を撮る機会が増えました。初めて歩いた日、旅行やお誕生日、子どもの成長をたくさん撮ってきました。振り返ると、色々な思い出が写真とともに思い出されます。ですが、コロナ禍でお出かけをする機会が減り、子どもも少し大きくなると、写真を撮る機会も減っていたので、何気ない日常でも写真を撮ってみることにしました。

いつも見慣れている近所の景色でも、形にして改めて見返すことで、見逃していた周囲の美しさに感動したり、子どもの成長を実感することができました。



フェスタおおぞら 中止のお知らせ

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、利用者および参加者の安全を考慮し、今年度も開催を中止させていただくことになりました。楽しみにしていただいていた皆様にはご迷惑をおかけしますが、ご理解の程よろしくお願い申し上げます。

なお代替案として、昨年同様各ゾーンにて職員企画による催しを実施する予定です。



また、撮った写真にスマホアプリでレタッチをすると、ピンと写真になるのでおすすめです。私は写真を見ると、いつでもその瞬間に戻ることができると思っています。これからも、大切な思い出を写真に残していきたいです。皆さんのおすすめの写真スポットがあれば、是非教えてください。

次回のリレーエッセイもお楽しみに。

苦情解決委員会

2022年1月～3月
期間中公表を希望される苦情はありませんでした。

	3月	4月
ショートステイ利用者数 (延べ利用日数)	17人 (72日)	34人 (181日)
放課後デイ利用者数 (延べ利用日数)	19人 (41日)	14人 (41日)
実習者数 (グループ数)	0人 (0グループ)	0人 (0グループ)

